

令和4年度6月 定例教育委員会会議録

令和4年6月21日（火）

山梨市教育委員会

令和4年度6月 定例教育委員会 議事録

令和4年6月21日（火）午前10時から、山梨市役所 401 会議室に召集された。

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 前回議事録署名
- 4 協議事項
  - (1) 中学校における制服緩和について
  - (2) 適正規模に関する基本的な考え方について
  - (3) 山梨市青少年県外交流事業（山口県美祢市との交流）について
  - (4) その他
- 5 承認事項
  - (1) 文化財の現状変更の承認について
- 6 報告事項
- 7 連絡事項
- 8 閉会

○出席者

教育長	嶋崎 修
教育長職務代理者	窪田 新治
教育委員	武井 茂
教育委員	矢野 眞由美
教育委員	古屋 勝也

○欠席者

なし

○事務局職員出席者

学校教育課長	磯村 賢一
生涯学習課長	角田 弘樹
学校教育課 指導主事	小串 吾郎
学校教育課 学校教育担当リーダー	星野 正裕
学校教育課 学校総務担当リーダー	小池 かおり
学校教育課 学校管理担当リーダー	小泉 健一
学校教育課 学校給食センター担当リーダー	久保川 貴教

生涯学習課 生涯学習担当リーダー 根津 道仁  
学校教育課 学校総務担当（議事録作成者） 小田切 咲紀

#### 4 協議事項の内容

司会 磯村課長

議事の進行を教育長にお願いする。

教育長

議事に入る。

(1) 中学校における制服緩和について、事務局から説明をお願いする。

学校教育課 磯村課長 資料1に基づき説明

- ・コロナ禍における暑さ対策ならびに衛生面の配慮から、中学校では学校指定の体育着での登下校及び授業への出席を認めているが、汗をかいた衣服による体調管理や衛生面の課題も挙げられている。
- ・熱中症対策と衛生管理の両面から、6月議会でポロシャツの採用について提案を受け、運用を検討している。
- ・また、ジェンダー平等や共生社会の実現という観点から制服の在り方についても検討していきたい。

教育長

暑さ対策をメインに、ポロシャツの運用を検討している。各中学校で2週間程度試行期間を設け、生徒保護者にアンケートを実施した上で、夏服や体育着と併せて選択肢の一つとしての導入を考えている。冬の防寒着についても今後考えることになるだろう。

委員から意見質問はあるか。

窪田職務代理

ポロシャツの導入は良いことだ。

自分が中学校の校長として働いていた時から、学ラン・セーラー服は現代に合っていないと考えていた。学ランは年に数回しか洗濯しない家庭も多く、また、どちらも軍服由来でイメージが良くない。21世紀となり世の中は変わっているのに、制服は何十年と変わらないままなのはおかしい。衛生面やイメージの面から変えていくべきだと思うので、この方向に賛成だ。

ジェンダーの問題を考えると、女子生徒がスカートを履きたくない場合もその逆の場合もあるだろう。個人的には、小学校では服装を自由に選べるのだから中学校も自由にしても問題ないと思っている。年頃の子どもたちはおしゃれをしたがるかもしれないが、学校にブランド品を着て来るとは思わない。海外の学校では自由な服装をしているが、服装によって生活態度や学習姿勢が悪くなるかということそうではない。中学校の先生が持つ何でも制服をきちんと着なければいけないという意識も変えていかなければならない。多様性や個性について教える一方で、同じ格好に揃える指導をしているのはいかがなものかと思っている。

ただ、進めていくには、金銭的な問題や学校現場の状況など考えなければいけないだろう。一番大事なのは子どもたちや保護者がどう考えるかだ。学ランを着たいという子がいれば着ても良いと思うし、緩やかに変えていけたら良い。

#### 矢野委員

アイディアはすごく良い。体育着では汗がにじんだりスポーツをして汚れたりして気になるという声を保護者から聞く。

東京の例だが、ポロシャツを複数色から選べるようにして、上はポロシャツかワイシャツ、下はスカートかズボンで選択できるようにした学校がある。男女で同じデザインを採用することでジェンダーに配慮し、白だけでなく水色や紺色のポロシャツを用意したことで女子生徒の下着の透けを防げるようになった。女子の下着は透け対策に色やデザインが規定されている学校も多いが、これによって本人が気にせず過ごせるようになっただけでなく、先生が指導する必要も減って大変良かったそうだ。参考にしてほしい。

#### 武井委員

今は多様性を大事にする時代で、子どもたちは共生社会に生きている。学校が規制・強制するのではなく、子どもたちが自分たちで決め自分たちで守っていくことが基本の大原則だ。学校で決めるのではなく議論を一度子どもたちにおろして、衛生面や金銭的な課題も自分たちでどうしていくべきか考え、自分たちで決めさせる時代だと思う。

#### 古屋委員

北中の生徒の保護者だが、子どもは毎日体育着で登校をしており、夏服を購入したが着ている生徒はほとんど見ない。総合的な判断をして変えていくは良いことだと思う。

式典や行事はある程度統一性があつたほうが子どもたちの意識も高まると思うが、その制服をブレザーやカジュアルになり過ぎないものに変えるのは良いと思う。

武井委員の言うように、小学校では先生の規制も必要だろうが、中学校では自分たちで考えて、道に外れそうになったら先生が指導するという方法が良い。先日授業参観を見ていてそうなりつつあると感じた。子どもたちの自主性を尊重しつつ、集団生活ができるように先生方大人が道筋を立ててあげると良いと思った。

教育長

大変前向きな指示をいただきありがたい。この会が意思決定の最高機関だと思っているので、スピード感を持って、暑さも厳しくなっているので一学期中には何かしら進めたい。子どもたちの自主的な判断をという意見も学校に伝える。

教育長

次に(2)適正規模に関する基本的な考え方について、事務局から説明をお願いする。

学校教育課 星野リーダー 資料2に基づき説明

- ・6月議会で小規模校の統廃合に関する質問を受け、教育長から現在具体的な統廃合は検討していないこと、保護者や地域住民の声、有識者等の意見を踏まえ子どもたちに最も良い方向性を見出してから統廃合を考えることを答弁した。
- ・本市では令和3年10月に小・中学校適正規模研究会を組織し、小規模小・中学校における望ましい教育環境確保のために報告書をまとめた。
- ・文部科学省の基本的な考え方では、学校規模の標準は小中学校ともに12学級以上18学級以下と設定しており、1学年2クラス以上ということになる。また、学校は地域のコミュニティの核として、防災・保育・地域の交流の場等の機能を併せ持つとされており、必ずしも小規模校の統廃合を推奨しているわけではない。
- ・全国的にも7割の市区町村で学校の適正規模に課題があり、うち8割が課題の解消に向けた検討をしている。今後の方向についてご意見いただきたい。

教育長

今回の議会質問は廃統合を前提としたものというより、今後の状況を心配しての内容だった。市内の多くの学校が学校規模の基準に満たない中で方向性を確認したいと思う。

武井委員

牧丘地域での統廃合の例をみると、まず保育園の統合が加速した。すると、同じ保育園に通っている仲間と同じ小学校に通いたい、一人二人しか入学しない学校に

は通いたくないとの声が出た。つまり保育園の統合と小学校の入学は密接に関わっており、地域の保育園が存続しているとその地域の学校に上がってくる。今後地元の保育園の子どもたちが上がって来なくなったらどうするのかという視点でも小学校と保育園のことを考えてほしい。

適正規模の基本的な考えについてはわかる。メリット・デメリットも報告書のとおりだと思うが市としてどうしていくのかを考えなければならない。

本市では地域住民から声が上がってから統合するという流れが基本になっている。先ほどの例では、地域の反対があってなかなか統合が進められなかったが、その後保護者から統合してほしいという意見が出て進んだ。今回も保護者からの意見を待つのか、それよりも踏み込んだ協議が必要ではないか。適正規模の考え方を基に、こういうあるべき姿がありこういう方法を考えながら統合により子どもたちの学びを成立させたいと、保育園を含めた論議、地域を含めてのメリット・デメリットを考える段階に来ていると思う。

#### 窪田職務代理

学校が地域のコミュニティの核であるのはわかる。保護者と地域住民で意識が違ってもいいので、無理しない程度の方向性を探っていくことになると思う。

実際問題として中学校では最低3クラス必要だというイメージがある。小学校でも2クラスないと学校としての活発な教育活動や切磋琢磨が足りないだろうと思う。小規模校も良い面はあるが大変になるのではと思っている。

以前他市の方から新生児の数を聞いて驚いたことがあるが、本市はどのくらい新生児がいるのか。現在の新生児数も含めて将来的に考える必要がある。

#### 教育長

統廃合が具体的にならずとも、適正規模の在り方は常に考えていかなければならない。

本市の新生児数は正確には言えないが150人くらいかと思う。

#### 窪田職務代理

150人という数はかなり少ない。小学校では6、7年後に、中学校では12、13年後に入学することになるので将来を考えなければならない。

#### 古屋委員

一つの地域が上手く動けば他地域にも動きが広がるだろう。教育委員会というより行政で取り組んでいることかもしれないが、人口問題は本当に課題だ。子どもの減少はそこで大人になって地元を支える人の減少でもあり、地元から人がいなくなる。難しい問題だが慎重かつ地域の住民と話し合いながら進めていかなければなら

ない。

矢野委員

基本的な考え方や統廃合に対する方向について賛成する。子どもの減少は出産への補助金や手当の充実をしないと出生率が上がらないと思うので、ぜひ出生率を上げるための検討会を市で考えてもらえればと思う。

教育長

次に(3)山梨市青少年県外交流事業(山口県美祢市との交流)について、事務局から説明をお願いします。

生涯学習課 角田課長 資料3に基づき説明

- ・山梨市出身の地質学者小沢儀明博士が山口県美祢市にある秋吉台の研究で功績を遺したことを縁として、平成14年から交流を行っている。
- ・隔年で子どもを派遣しての交流だが、コロナ禍で令和2年度は中止、3年度はオンライン開催、今年度もオンライン開催にしたいと美祢市から連絡があった。
- ・3年度は互いの市に関するクイズを行ったが今年度は別の内容で検討している。

教育長

長く続いてきた事業だが、小沢博士のやってきたことがあまり繋がっておらず市内での美祢市の知名度は高くない。また、13時間のバスの移動があり、コロナ禍であることを含めてもそろそろ変えていかなければならないと思う。相手のあることですぐに決めることはできないが見直しを含め検討していかなければならない。今年度の事業はこれから美祢市と相談して決めていくが、今後の方向性について意見を伺いたい。

交流ができなくても地形を見るだけでも意味があると思うが、オンラインではインパクトが薄くなってしまおうと思っている。

武井委員

美祢市は山梨市と比べてどのくらいの規模の市か。

小串指導主事

人口2万2000人程だ。

武井委員

開催地が山梨市の時も本市の参加者が少ない。毎年参加者数も増えているわけではなく、成果がわかりにくいと感じる。

教育長

ジュニアリーダーズクラブやシニアリーダーズクラブが手伝って盛り上げてくれている反面、周知が弱いと感じている。

矢野委員

参加人数を増やせると良い。

窪田職務代理

実際に行けば良い体験になる。小学生にとって秋吉台や秋芳洞などを見る機会はとても貴重だと思う。

教育長

それでは担当課には多方面から見直しと参加の呼びかけの工夫をお願いします。

教育長

次に(4)その他、事務局から何かあるか。

学校教育課 星野リーダー

4月に教育長から各学校での取り組みの効率化を進めるよう指示があり、市教委と学校間の文書のやりとりのペーパーレス化を進めている。今までは一日に5、6通、一週間で40通近いの紙文書のやり取りがあったが電子データにできるものは切り替えを始めている。効率化につながると好評いただいている。

教育長

他にあるか。

事務局

なし。

教育長

以上で議事を終了する。

議事終了

## 5 承認事項

### (1) 文化財の現状変更の承認について

- ・天然記念物「下神内川のイヌツゲ」の現所在地東側への移植承認